

川根町

地形概況

南北に大井川が縦断し鶴山七曲りの曲流と広い礫質の河床、抜里から久奈平にかけての河岸段丘と旧流路、貫流丘陵、野守池など特色がある。笹間川流域山地も広く、石上は山間盆地となる。家山川流域山地は高位緩斜面もみられ、切山は地すべり地である。

地質概況

町域全体に三倉層群が分布し、砂岩・砂岩泥岩互層・砂岩泥岩乱雑層などに区分されるが、北東-南西の走向をもち、帯状に配列する、断層による破碎作用や風化作用も進行し、地すべりや山地崩壊も多発している。大井川ぞいに河岸段丘が発達する。

気象概況

年平均気温は推定 14.7℃、年平均降水量が 2,924mm(家山)。地盤の標高が高くなるにつれて気温が低下し、盆地や窪地では一日の温度差が大きくなる。中部山岳地帯の南斜面は日本の多雨地帯であり、降水量は県平均より約 20%も多い。

災害事例 地震

- 1854 年 12 月 23 日 (安政元年) 安政東海地震 M=8.4
全県下に被害を生じた。川根では各所の土蔵は残らずふるい落され、井戸より泥水を吹出した。遠見山は一部崩壊し本村石上奥で笹間川を堰止め流れを中断した。およそ 2 か月余の間、崩壊地から約 4km の上流の栗原まで一面湖水となった。川根・笹間での震度は 5~6 であった。

災害事例 台風

- 1960 年 8 月 13 日 (昭和 35 年) 台風 12 号
県中・西部で被害があった。大井川下流一帯で 1 時間 50~70mm の豪雨で、川根町家山でも沢が氾濫し、渡島部落の川沿いは流失してしまった。被害は死者 5 人、負傷者 3 人、行方不明 2 人、全壊 15 戸、半壊 24 戸、流失 5 戸、床上浸水 155 戸、床下浸水 393 戸に達した。

災害事例 冷害

- 1836 (天保 7 年)
天保 4、5 年以来の不作続きに加えて、天保 7 年は暴風雨と冷害により、川根地方は大飢饉となり、穀物の価格が大暴騰した。
- 1786 (天明 6 年)
この年の春には晩霜が襲い、さらに 7 月(1 日)ごろから豪雨が続いて冷害の年になった。全国的な飢饉から、穀物の価格がいちじるしく騰貴して、村人たちの苦しみは大きかった。